

わが心石にあらざれば

年に一度だけ「謹賀新年
正月元旦」と、味も素っ気
もない賀状を送ってくるほ
かには何の便りも無い昔の
友人から一枚のハガキが来
ました。昔、職場で同僚や
上司だけでなく、上司に忠
義な後輩たちからまで様々
に「いじめ」を受けた経験
をこのたび電子出版したか
ら読んでくれ、というもの
です。

案内に沿ってインターネ
ットのブラウザを操作して
いくと、なるほどウェブ上
に件の電子書籍が出てきま
した。1冊500円とのこ
と。500円が惜しいわけ
ではないが、お金を出して
まで彼のいじめ体験を思い
出させられるのめかなわな
いと、怖気づいて未だにそ
こから先をクリックしてい
ない。
たしかに遠い昔、職場で
「いじめられていた」とい
う人からの訴えを聞いた
ことがありましたし、役に
は立たなかったかもしれな
いが、負けるなど激励した
記憶が筆者にも残っていま
す。しかし、彼が職場を去
ってからすでに15年以上
の年月が経過し、もういい

加減で矛を収めてもよさそ
うなものだとハガキを見て
の第一印象でした。

しかし、それは傍観者の
論理。彼にしてみればどこ
かにはけ口を求めないとや
り切れない想いが残ってい
るのでしよう。忘れられれ
ば良いが、ひとたび被害者
意識が残ると、いつかどこ
かでその恨みをはらさない
ではいられない。電子出版
するか、ふてくされるか、
手段方法は千差万別であつ
ても生きている間に何か異
議を申し立てずにはいられ
ない。実に人間の執念の恐
ろしさです。

ドメスティックバイオレ
ンスに始まって、小中高校
での校内いじめ、大学でア
カハラ、職場のパワハラに
セクハラ、はては領土を取
ったの取られたのと国家間
の争いまで、恨みを溜め込
む仕組みは数限りなくあり
ます。間違いなく言えるこ
とは異議申し立ての手段に
事欠いた結果が様々な惨劇
を招くということ。

「我が心石にあらざれば
転がすべからざるなり」(『詩
経』)。友人から来た切ない
ハガキを見ながらこんな旧
い言葉を呪文のように唱え
ておりました。